

# 2013年度 第2四半期(中間)決算の概要

2013年10月28日  
コマツ  
取締役(兼)専務執行役員 CFO  
藤塚 主夫

## 2013年度 上期(4~9月)の概況

2

## 1. 売上・損益

- ・連結売上高は前年同期比▲0.6%減収の9,251億円、営業利益は同▲2.1%減益の1,089億円。
- ・四半期純利益は+19.2%増益の788億円。

	2012年4~9月 (2012年度 上期)	2013年4~9月 (2013年度 上期)	前年同期比
連結売上高	9,308 億円	9,251 億円	▲ 0.6 %
営業利益	1,112 億円	1,089 億円	▲ 2.1 %
売上高営業利益率	12.0 %	11.8 %	▲ 0.2ポイント
四半期純利益*	661 億円	788 億円	+19.2 %

\* 米国税務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

## 2. 各セグメントの状況

## ■ 建設機械・車両:

- ・資源価格が依然低迷する中での鉱山機械の需要減を、堅調な日本や、回復に転じた中国における一般建機の販売数量増等で補ったものの、売上高は前年同期比▲1.1%の減収。セグメント利益は同▲3.5%の減益。

## ■ 産業機械他:

- ・大型プレス等の板金鍛圧機械や、工作機械の販売は堅調で、増収増益。
- ・売上高セグメント利益率も1.4ポイント改善して4.8%。

## 3. 中間配当金: 29円 (前中間期:24円)

(注) 本資料では第2四半期累計(4~9月)を「上期」と表示します。

■2013年度上期、コマツの連結売上高は前年同期比▲0.6%減収の9,251億円、営業利益は同▲2.1%減益の1,089億円となりました。

■純利益は、前年同期比+19.2%増益の788億円となりました。

## [各セグメントの状況]

■建設機械・車両: 資源価格が依然低迷する中での鉱山機械の需要減を、堅調な日本や、回復に転じた中国における一般建機の販売数量増等で補ったものの、売上高は前年同期比▲1.1%の減収となりました。セグメント利益も同▲3.5%の減益となりました。

■産業機械他: 大型プレス等の板金鍛圧機械や、工作機械の販売は堅調で、増収増益となりました。売上高セグメント利益率も1.4ポイント改善して4.8%となりました。

## [配当金]

■本日の取締役会において、今年度の中間配当を29円で決議致しました。

## 2013年度 第2四半期(7~9月)の連結売上高と損益

- ・鉱山機械の需要減を、日本、中国の一般建機需要や、堅調な自動車業界向け産業機械の販売数量増によりカバーし、売上高は前年同四半期比+2.0%増収の4,699億円。
- ・純利益は前年同四半期比+22.2%増益の415億円。

	2012年7~9月 (2012年度/2Q) 1ドル=78.7円 1ユーロ=98.3円 1元=12.4円		2013年7~9月 (2013年度/2Q) 1ドル=98.6円 1ユーロ=129.9円 1元=16.1円		前年同四半期比	
	%				増減	増減率
売上高	4,609		4,699		+90	+2.0%
- 建設機械・車両	(4,087)	4,093	(4,128)	4,134	(+41) +40	(+1.0%) +1.0%
- 産業機械他	(521)	541	(570)	592	(+49) +51	(+9.5%) +9.4%
- 消去	▲25		▲26		▲1	-
セグメント利益	12.2%	560	12.0%	565	+5	+0.9%
- 建設機械・車両	13.5%	553	12.9%	531	▲21	▲4.0%
- 産業機械他	1.7%	9	6.7%	39	+30	+330.8%
- 消去または全社	▲2		▲6		▲3	-
その他の営業収益(▲費用)	▲4		▲0		+4	-
営業利益	12.1%	555	12.0%	565	+9	+1.8%
その他の収益(▲費用)	▲14		43		+57	-
税引前四半期純利益	541		608		+67	+12.4%
四半期純利益*	339		415		+75	+22.2%

\* 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

■2013年度第2四半期(7~9月)の売上高は、鉱山機械の需要減による減収を、日本、中国の一般建機売上増、為替影響、堅調な自動車業界向け産業機械の販売増加によりカバーし、前年同四半期比+2.0%増収の4,699億円となりました。

■建設機械・車両部門の売上高は、+1.0%増収の4,134億円、産業機械他部門の売上高は、+9.4%増収の592億円となりました。

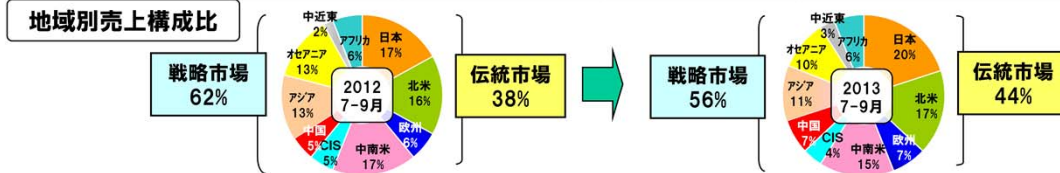
■セグメント利益は、建設機械・車両部門が、前年同四半期比▲4.0%減益の531億円、産業機械他部門が、同3.3倍の39億円となりました。

■営業利益は、前年同四半期比+1.8%増益の565億円、売上高営業利益率は同0.1ポイント下がり12.0%となりました。

■純利益は、前年同四半期比+22.2%増益の415億となりました。

・鉱山機械の需要減少に伴いオセアニア、中南米、インドネシアを中心とするアジアの売上が減少したものの、好調な日本、回復に転じた中国等の売上増により、全体で前年同四半期比+1.0%増収の4,128億円。

(金額単位:億円)		2012年7~9月 (2012年度/2Q)	2013年7~9月 (2013年度/2Q)	前年同四半期比	
				増減	増減率
伝統市場	日本	698	835	+137	+19.6%
	北米	639	706	+67	+10.5%
	欧州	230	267	+37	+16.1%
戦略市場	中南米	693	616	▲77	▲11.2%
	CIS	192	172	▲20	▲10.6%
	中国	217	313	+95	+43.8%
	アジア	524	439	▲84	▲16.1%
	オセアニア	548	397	▲150	▲27.5%
	中近東	90	136	+45	+50.2%
	アフリカ	251	243	▲8	▲3.2%
合計		4,087	4,128	+41	+1.0%
うち、鉱山機械		1,633	1,192	▲441	▲27.0%



■2013年度第2四半期(7~9月)の建設機械・車両部門の地域別売上高(外部顧客向け)は、伝統市場(日本・北米・欧州)と、中国・中近東向けが延びる一方、他の戦略市場向けが減少しました。

■中国市場では第1四半期以降の回復が継続し、前年同四半期比で+43.8%の増加となりました。

■構成比で見た場合、伝統市場の比率が44%まで増加しました。



## 2013年度 上期(4~9月)の連結売上高と損益

5

・資源価格の回復遅れによる鉱山機械の需要減を、堅調な日本や回復に転じた中国等の一般建機ならびに自動車業界向け産業機械の販売数量増等で補ったものの、連結売上高は前年同期比▲0.6%減収の9,251億円、営業利益は同▲2.1%減益の1,089億円。

(): 利益率 ( ): 外部顧客向け売上高

金額単位: 億円

	2012年4~9月 (2012年度/上)		2013年4~9月 (2013年度/上)		前年同期比	
	1ドル=79.6円 1ユーロ=101.5円 1元=12.6円		1ドル=98.0円 1ユーロ=128.2円 1元=15.9円		増減	増減率
売上高	9,308		9,251		▲57	▲0.6%
- 建設機械・車両	(8,376)	8,391	(8,287)	8,300	(▲88) ▲90	(▲1.1%) ▲1.1%
- 産業機械他	(931)	971	(963)	995	(+31) +24	(+3.4%) +2.5%
- 消去	▲55		▲45		+9	-
セグメント利益	12.0%	1,112	11.8%	1,090	▲21	▲2.0%
- 建設機械・車両	13.1%	1,095	12.7%	1,057	▲37	▲3.5%
- 産業機械他	3.4%	33	4.8%	48	+15	+45.7%
- 消去または全社	▲16		▲15		+0	-
その他の営業収益(▲費用)	▲0		▲1		▲1	-
営業利益	12.0%	1,112	11.8%	1,089	▲23	▲2.1%
その他の収益(▲費用)	▲58		35		+93	-
税引前四半期純利益	1,053		1,124		+70	+6.7%
四半期純利益*	661		788		+126	+19.2%
1株当たり配当金(円)	24円		29円		+5円	

\* 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

■2013年度上期(4~9月)の売上高は、鉱山機械の需要減による減収が大きく、為替差による増収もありましたが、全体では前年同期比▲0.6%減収の9,251億円となりました。

■建設機械・車両部門の売上高は、▲1.1%減収の8,300億円、産業機械他部門の売上高は、+2.5%増収の995億円となりました。

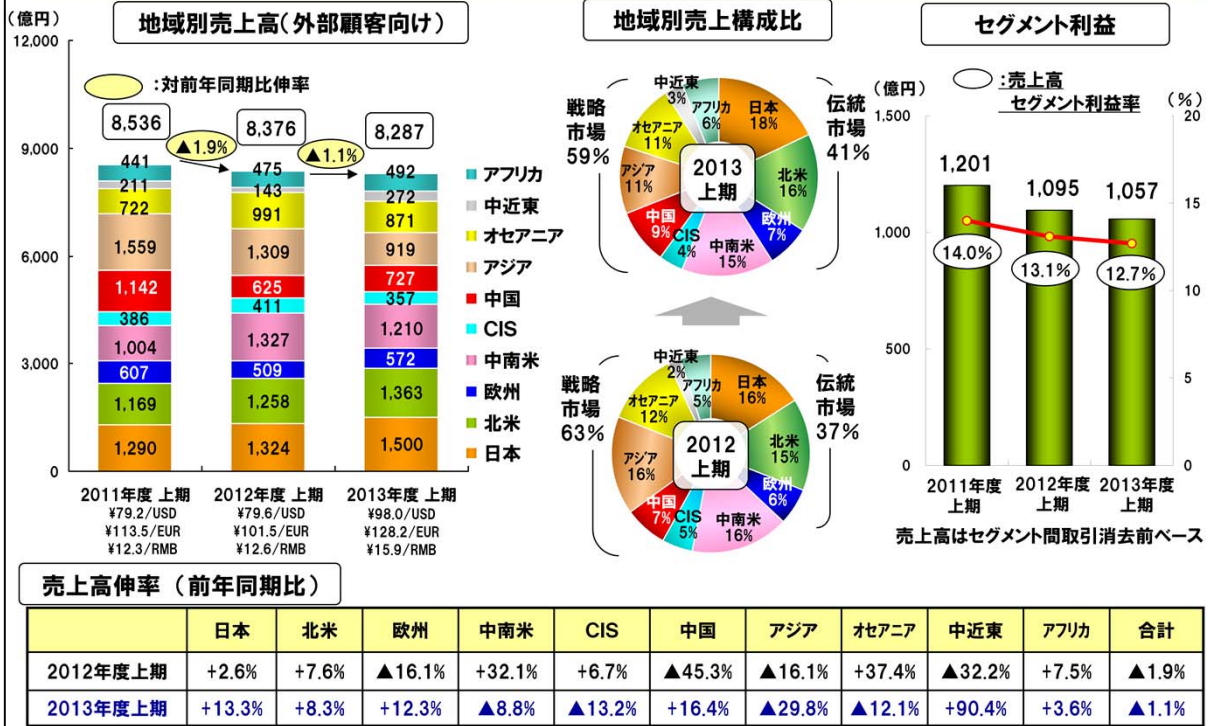
■セグメント利益は、建設機械・車両部門が、前年同期比▲3.5%減益の1,057億円、産業機械他部門が、同+45.7%の48億円となりました。

■営業利益は、前年同期比▲2.1%減益の1,089億円、売上高営業利益率は同0.2ポイント下がり11.8%となりました。

■純利益は、前年同期比+19.2%増益の788億となりました。

<建設機械・車両> 2013年度 上期 地域別売上高とセグメント利益

・鉱山機械の需要減に伴いオセアニア、中南米、アジアの構成比が減少し、伝統市場の比率が増大。  
 ・セグメント利益率は前年同期並みの水準を維持。



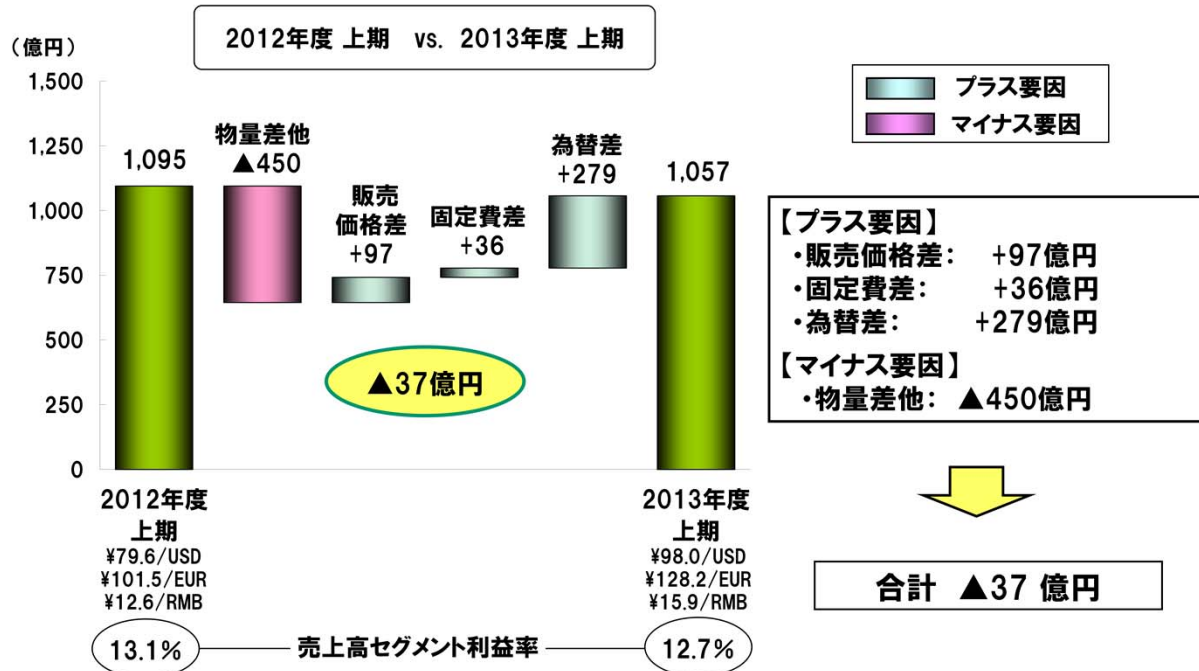
■2013年度上期(4~9月)の建設機械・車両部門の地域別売上高(外部顧客向け)は、前年同期比▲1.1%減の8,287億円となりました。

■中国市場では4月以降の回復が継続し、前年同期比で+16.4%の売上増加となりました。

■アジアでは、最大市場のインドネシアにおいて、燃料炭の国際価格の低迷と足元のルピア安の進行などの影響を受け、鉱山機械および一般建設機械の需要が落ち込んだため、売上が大きく落ち込みました。

■構成比で見た場合、伝統市場の比率が41%となります。

・需要・販売の減による物量差他▲450億円に対して、価格差、固定費差、為替差の増益要因があったが、ネットでは▲37億円の減益。  
 ・売上高セグメント利益率は、▲0.4ポイント減の12.7%。



■建設機械・車両のセグメント利益について、前年同期との増減要因を示しています。

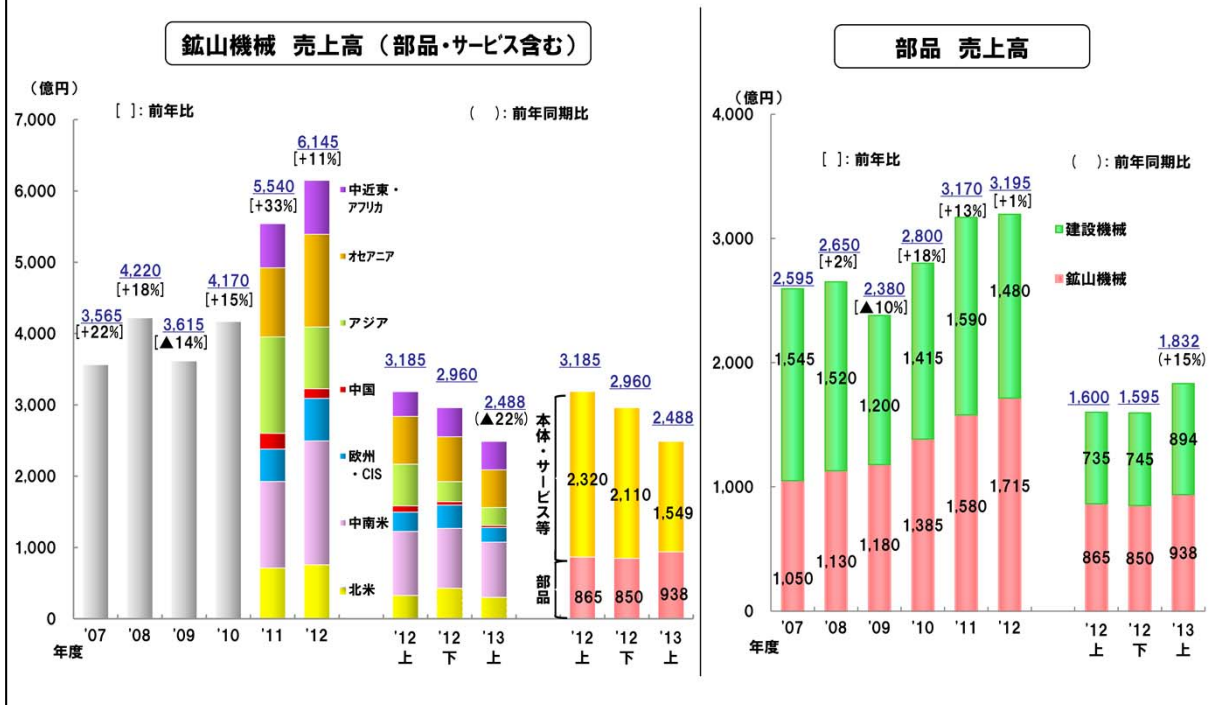
■物量差のマイナスが大きく、販売価格差、固定費差、為替差で補いましたが、ネットで▲37億円の減益となりました。

■固定費差+36億円には、減価償却方法を定率法から定額法に変更したことによる影響を約+53億円含んでいます。

■為替差は、海外現地法人に出荷した商品が現地のお客様に販売されて利益が実現するまでのタイムラグの影響をネットして+279億円となりました。

<建設・鉱山機械> 鉱山機械・部品の売上高

- ・上期の鉱山機械売上高は、資源価格が回復せず需要が低調に推移した結果、前年同期比▲22%減。
- ・上期の部品売上高は配車台数の増加により引き続き伸長。前年同期比+15%増の1,832億円。



■上期の鉱山機械売上高は、資源価格が回復せず、また鉱山ユーザの収益体質見直しによる投資意欲の低下もあり、為替差による増収もありましたが、前年同期比▲22%減の2,488億円となりました。

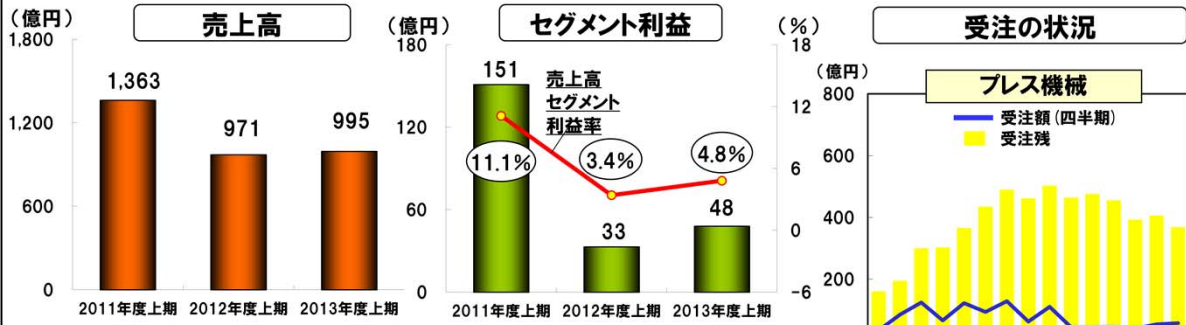
■内訳としては、本体・サービスが▲34%の1,549億円であったのに対し、部品は配車台数の増加もあり、+8%の938億円となりました。

■上期の部品売上高は配車台数の増加により引き続き伸長し、前年同期比+15%増の1,832億円となりました。



<産業機械他> 売上高とセグメント利益

- ・大型プレス等の板金鍛圧機械や、工作機械の販売は堅調で、増収増益。
- ・売上高セグメント利益率も1.4ポイント改善して4.8%。



売上高の内訳 (2012年度上期 vs. 2013年度上期)

金額単位: 億円

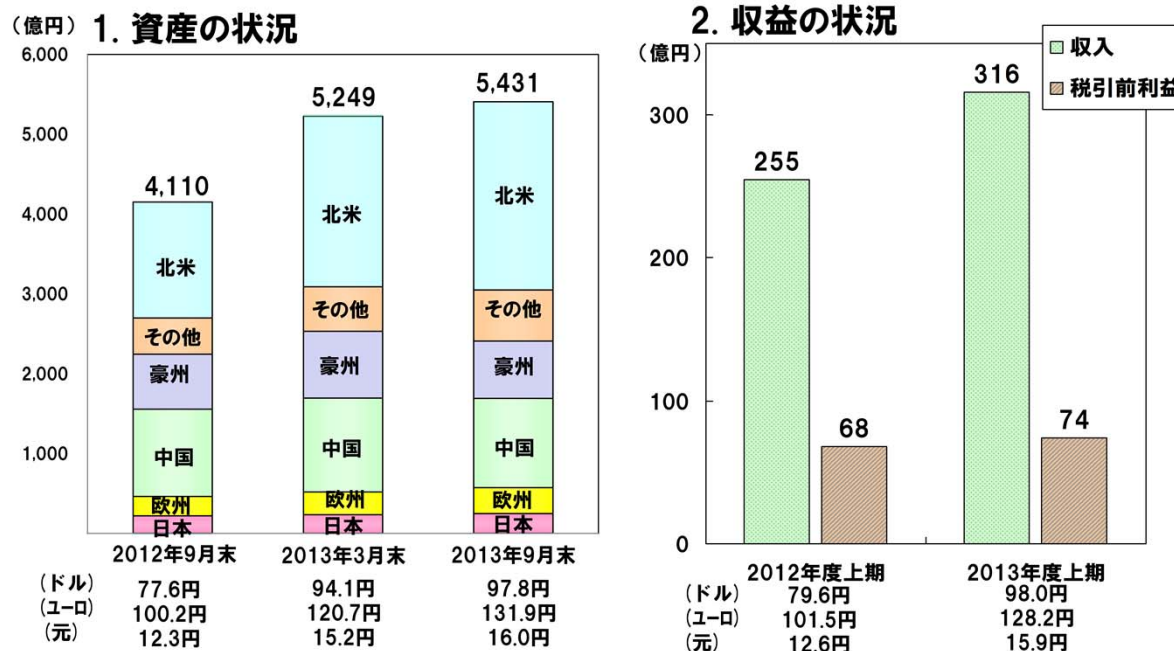
	2012年度上期	2013年度上期	増減
コマツ産機等 (板金鍛圧事業合計)	219	259	+39
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	347 [36]	331 [25]	▲16 [▲11]
その他 [うち、キガフオン] [うち、コマツハウス]	405 [111] [75]	405 [106] [81]	0 [▲5] [+5]
合計	971	995	+24

■産業機械他セグメントでは、ワイヤーソーの需要は依然として低迷しているものの、自動車業界向けを中心に工作機械および板金鍛圧機械の販売数量が伸長したことにより、売上高は前年同期比+2.5%増収の995億円、セグメント利益は同45.7%増益の48億円となりました。

■売上高セグメント利益率も1.4ポイント改善して4.8ポイントとなりました。

- ・資産は円安の影響に加え、北米等で新規取扱が増えたこと等により前年度末比で若干増加。
- ・収入・税引前利益は、前年同期比で増収増益。

リテールファイナンス子会社の状況



■リテールファイナンスは、円安の影響に加え、北米・日本等で新規取扱が増えたこと等により前年度末比で資産増となりました。

■収入・税引前利益は、為替の影響を除くとほぼ前年同期並みの水準となりました。

## 連結貸借対照表

11

- ・総資産は、為替レートが円安になったこと等により前年度末比で+288億円増加。
- ・株主資本比率は+2.8ポイント増の50.2%。ネットD/Eレシオは0.41と、前年度末に比べ改善。

金額単位:億円 ○ :ネットD/Eレシオ	2013年3月末 1ドル=94.1円 1ユーロ=120.7円 1元=15.2円	2013年9月末 1ドル=97.8円 1ユーロ=131.9円 1元=16.0円	前期末比 増減
現金・預金(含む定期預金) [a]	938	920	▲17
受取手形・売掛金(含む長期売上債権) <除くリテールファイナンス会社>	8,427 <4,143>	7,867 <3,548>	▲560 <▲594>
棚卸資産	6,336	6,799	+462
有形固定資産	5,852	6,160	+307
その他資産	3,624	3,719	+95
<b>資産合計</b>	<b>25,178</b>	<b>25,466</b>	<b>+288</b>
支払手形・買掛金	2,262	2,345	+82
借入金・社債 [b] <除くリテールファイナンス会社>	6,797 <2,981>	6,208 <2,308>	▲588 <▲673>
その他の負債	3,591	3,535	▲55
<b>負債合計</b>	<b>12,651</b>	<b>12,089</b>	<b>▲562</b>
(株主資本比率)	(47.4%)	(50.2%)	(+2.8ポイント)
株主資本	11,931	12,784	+852
非支配持分	595	592	▲2
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>25,178</b>	<b>25,466</b>	<b>+288</b>
<b>ネットベースの借入金・社債 [b-a]</b>	○ 0.49 5,859	○ 0.41 5,288	▲570
ネットD/Eレシオ (リテールファイナンス会社を除いた場合)	○ 0.20	○ 0.13	

■総資産は前年度末比で+288億円増加しましたが、為替の影響を除けば約150億円の減少となりました。

■棚卸資産は前年度末と比較すると為替影響を除いても300億程度多いですが、6月末との比較では若干の増加です。

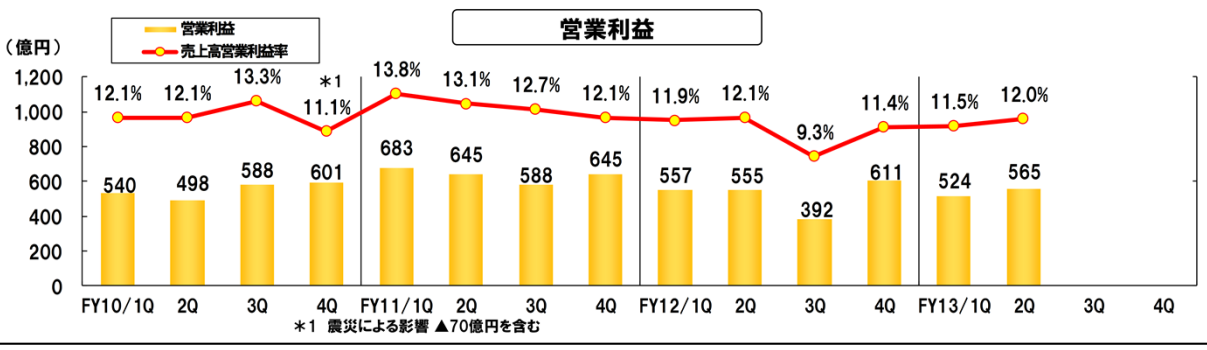
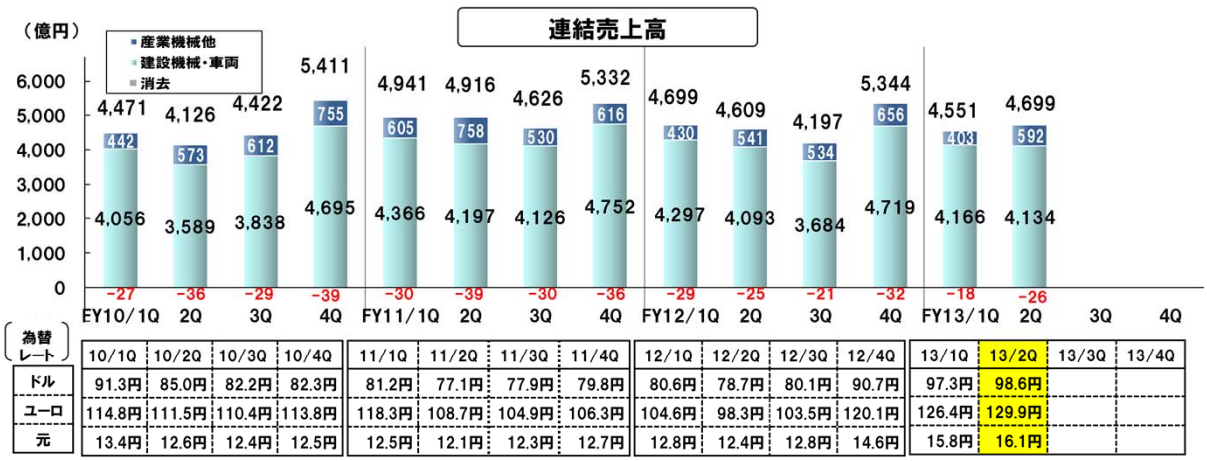
■借入金・社債は更に削減を進め、ネットD/Eレシオは全社で0.41、リテールファイナンス会社を除いて0.13まで改善しました。

■株主資本比率は+2.8ポイント増の50.2ポイントとなりました。

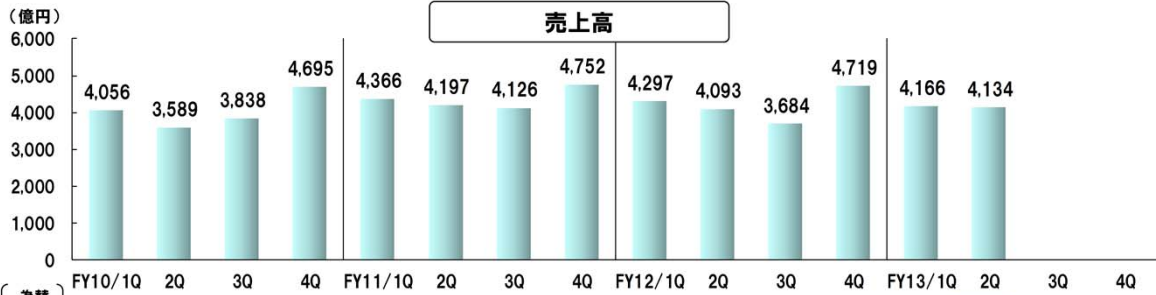
**<資料>**



四半期毎の連結売上高と営業利益の推移

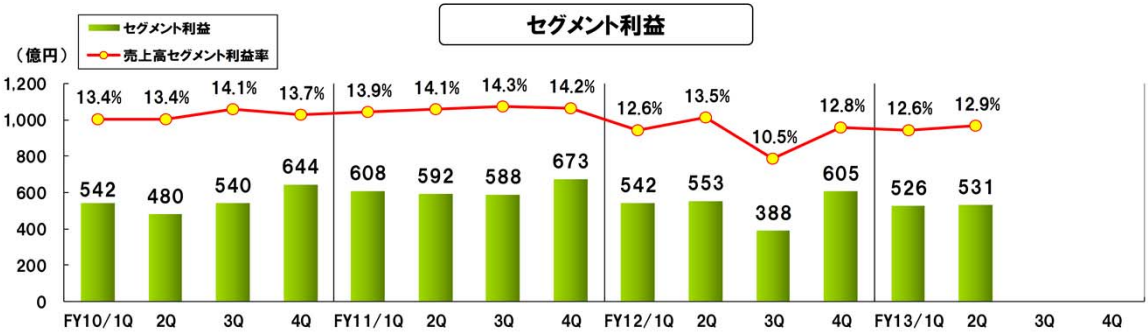


<建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

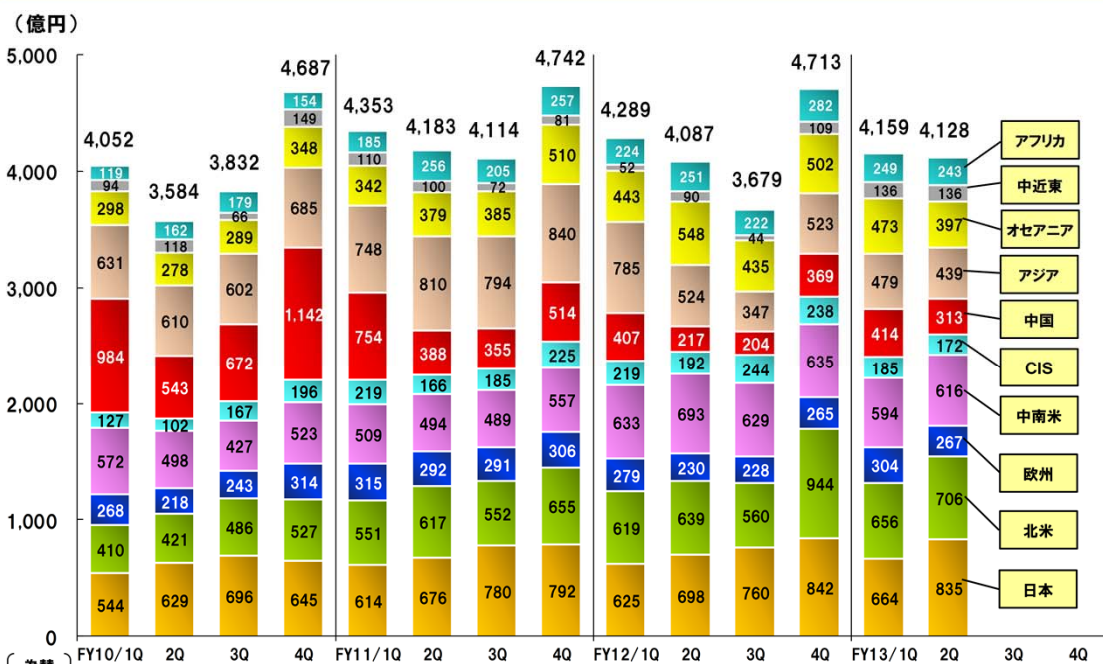


為替レート

為替レート	10/10	10/20	10/30	10/40	11/10	11/20	11/30	11/40	12/10	12/20	12/30	12/40	13/10	13/20	13/30	13/40
ドル	91.3円	85.0円	82.2円	82.3円	81.2円	77.1円	77.9円	79.8円	80.6円	78.7円	80.1円	90.7円	97.3円	98.6円		
ユーロ	114.8円	111.5円	110.4円	113.8円	118.3円	108.7円	104.9円	106.3円	104.6円	98.3円	103.5円	120.1円	126.4円	129.9円		
元	13.4円	12.6円	12.4円	12.5円	12.5円	12.1円	12.3円	12.7円	12.8円	12.4円	12.8円	14.6円	15.8円	16.1円		



<建設機械・車両> 四半期毎の地域別売上高(外部顧客向け)



為替レート	FY10/10				FY11/10				FY12/10				FY13/10			
	10/10	10/20	10/30	10/40	11/10	11/20	11/30	11/40	12/10	12/20	12/30	12/40	13/10	13/20	13/30	13/40
ドル	91.3円	85.0円	82.2円	82.3円	81.2円	77.1円	77.9円	79.8円	80.6円	78.7円	80.1円	90.7円	97.3円	98.6円		
ユーロ	114.8円	111.5円	110.4円	113.8円	118.3円	108.7円	104.9円	106.3円	104.6円	98.3円	103.5円	120.1円	126.4円	129.9円		
元	13.4円	12.6円	12.4円	12.5円	12.5円	12.1円	12.3円	12.7円	12.8円	12.4円	12.8円	14.6円	15.8円	16.1円		

